

# Sud Éventail

Fumitaka Nakamura

MIDI Guitar: Tetsuro Shimamura

Kyma Operation: Fumitaka Nakamura

## 作品解説

題名の“Sud Éventail”は意味がない<sup>1</sup>。カタカナ読みでは「シュ・デヴァンティーユ」とでもなるのだろうか。

システム構成は下の図にある通りで、MIDI ギターと Kyma、OpenGL システム(DOS/V 機)のために書かれた作品である。サウンド系の素材は MIDI ギターの演奏のみ(ピックアップからのエレクトリック・ギター演奏音 + MIDI 音源)で、Capybara 320 で全てリアルタイムに加工・サンプリングを行っている。それ以外の音はまったく使用していない。ギター奏者は予め渡された楽譜をもとに即興を交えた演奏を行う。

Capybara 320 の音響処理は OpenGL の CG 系から送られるパラメータでリアルタイムに変更される。OpenGL の CG 系は MIDI ギターからのノート及びベンドの情報をパラメータとして受け取り、毎回異なる発展をする一種のオートマトン系となっている。この結果、奏者の演奏によって CG が変わり、CG によって音響が変化し、それを視聴する奏者の演奏が変わることで更にこのプロセスが進行する、という、音と映像が一体となったフィードバックループが形成されることになる。

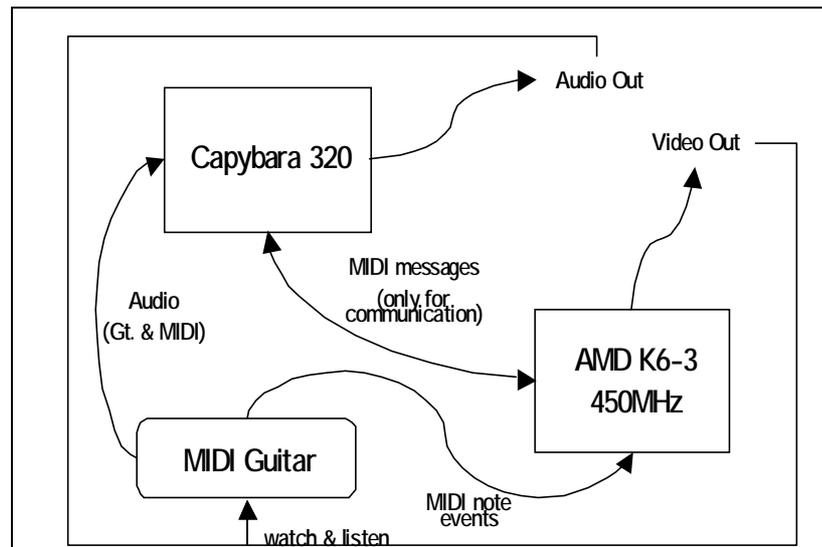
このコンセプトは昨年相愛大学で発表した“QCD”と同じ系列のものである。主な違いは、演奏素材を予め指定したことによる偶然性の減少、及び、Kyma の導入によって音響処理システム的能力上の制約が緩和されたことでより作曲者のイメージに近い音響処理が実現されたことである。

中村文隆:

京都大学理学部理学研究科博士後期課程修了・理学博士。神戸山手女子短期大学専任講師。1997 年からコンピュータ音楽の作品発表を開始。有機的なマルチメディア作品の構築に関心がある。

島村徹郎:

京都大学理学部卒業。松下電子部品株式会社開発技術センター勤務。Radical Shun Band のギタリストとして活躍。中村作品ではしばしばギターを担当している。



<sup>1</sup> “sud”は「南」、”éventail”は「扇子」、である